

議事録

会議名	令和6年度第2回京田辺市総合教育会議
日 時	令和6年12月10日(火) 午後1時30分
場 所	京田辺市役所403会議室
出席者	上村市長、山岡教育長、藤原教育長職務代理者、上村教育委員、伊東教育委員、藤井教育委員 (事務局) 池田企画政策部長、森田企画政策部副部長、古谷企画調整室指導主幹(教育部副部長)、平岡企画調整室指導主幹(教育総務室担当課長)、近藤企画調整室主査(教育総務室係長)、鈴木企画調整室再任用主査(教育総務室再任用主査)、櫛田教育部長、片山教育指導監、勝又こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長、出島社会教育課長、七五三社会教育課担当課長 釘本こども未来部長、河本こども未来部副部長、吉田こども未来部政策推進室主査
審議内容	・ (仮称) 京田辺市こども計画について

○議事

・議 事 (仮称) こども計画について

事 務 局 (資料に基づき説明)

市 長 30歳までをこどもの定義とするのに、まだまだ実感がわかないという感覚であるが、せっかくなので、忌憚のないご意見をいただきたい。

教育委員 学校教育を含めて教育振興計画等々、行動計画のイメージの中にそれらがどのように位置づけられているのか教えていただきたい。

事 務 局 こども計画は第四次京田辺市総合計画を上位計画とする計画で、教育振興基本計画と整合・連携するものであると考えている。教育振興基本計画に記載されている事業のうち、こどもまんなか実行計画に掲載されている事業と関連している事業を記載している。

教育委員 図解等でわかるようにしていただけると良い。「やさしい版」でおねがいします。

教 育 長 中身に入る前に「やさしい版」はどのようなものか。

事 務 局 やさしいイラスト、わかりやすい言葉・表現で説明しているもの。

(原物を配布して説明)

パブリックコメントでも「やさしい版」はつけさせていただいている。まず、手に取ってみていただきたいとの思いから作成を行った。

- 教 育 長** 若い人にはいきなりボリュームのある計画はどこから見ていいかわからないこともあるので、わかりやすい内容のもので、なおかつ「概要」という堅い表現ではなく「やさしい」という表現している部分が良いと思う。
- 教育委員** こども計画の主人公はこどもなので、大人基準でなく、こどもが年齢や学年等で段階的にステージを分けてそれぞれ理解できるよう内容で作成してもらうと、わかりやすいのではないか。
- 市 長** 去年の6月のワークショップのときに関わってくれたこども達に計画についての意見を聞くことも良いのでは。大人目線で「やさしい版」を作ったが、難しい言葉とか逆に教えてもらうなど良いのではないか。
- 教育委員** 例えば学校というイメージがあって、そこをクリックしたら学校で行われることへの支援の内容とか、あるいは教育センター支援センターというところをロゴがあってそこをクリックしたら、教育センターで行われることの支援の中身やそれぞれの施設ごとで行われるような中身が見えるとわかりやすい。ガイドマップ等をつけていただけだと、こどもでもアクセスしやすいと思う。
- 事 務 局** 可視化された情報の掲載は大事であると考える。
- 教育委員** 本編の分量が多いと感じる。本編そのものをわかりやすく工夫いただきたい。膨大な資料があるが、気になる所は資料後半部分が市の施策が認知されていない証みたいなデータとなっている。ねらいとともに取捨選択して精選することが大事なのでは。どうしてもネットに疎い高齢者も理解できる内容とすることも市の広報戦略として多角的に考えていただきたい。
- 教育委員** 教育委員会として、こども計画の中で共通の目標設定のようなものがあっても良いのでは。
- 教育委員** 「こども」という定義の中で福祉と教育が一体的な組織化があっても良いのでは。
- 市 長** ある不登校のこどもを家庭訪問すると、実はおばあさんが認知症で、その面倒を見ており、さらには家庭内でお父さんやお母さんが障害をお持ちであることがあった。このように、特定の部分だけに焦点を当てて制度設計を行うと、縦割りの支援になってしまいますが、全体として支えていくことを考えると、こども計画に沿った教育が必要で、例えば、保育や幼稚園など垣根を越えて、みんなで支え合いながらこどもに向き合うことができるようなイメージを持つことが大切である。また、こどもを30歳までと捉える中で、「こども計画」という名称についても議論が必要で、逆に、長くなつても良

いのではないか。こども計画でなければならないという考え方もあるが、重層的な支援を行うためには、「誰一人取り残さない」という理念の共通認識をもつことが重要である。

教育長 資料1では、丁寧にこどもたちや保護者から意見を聞き、ワークショップを実施していただいている。その結果、こどもたちの厳しい家庭状況の実態が明らかになったと感じる。これを踏まえると、市の支援施策が非常に重要なことがわかる。ただし、「支援」という言葉については、さまざまな市の計画で使われているものの、助けてくれるというイメージが強くなってしまうことがあるが、今回の「こども計画」という名称は良いと思うが、それだけでは内容が伝わりにくいため、「やさしい版」を用意し、内容を理解していただけるようにすることが重要である。その本編を見ていただくことで、今までとは異なるネーミングで、さまざまな方々にその取り組みを理解していただけることを期待している。福祉と教育は本来一体的なものであるが、これまでではそれぞれの分野で独立してしまっていた。しかし、今回の取り組みによって、つながりが生まれたのではないか。今後は、こども未来部と教育委員会がしっかりと連携できるかどうかが重要になってくる。

市長 今後の計画を含めて、可視化し、まずは市民にその内容を知ってもらうことが重要である。そして、行政も全般的にこの計画を理解する必要がある。

教育委員会は学校教育を担当し、こども未来部を含めた福祉部門も家庭環境を支える役割があり、みんなで支えるということで、この計画がより広く周知できればと思う。

教育委員 様々なアンケート等を集約してデータの分析を行い、計画に反映していく上で、市の施策としての特徴的な強み、弱みがあるのか。

事務局 まず、乳幼児期において専門職である保健師が関わる中で、「妊娠期から出産してこどもが就学するまでの伴走型の支援」ということで、地区担当の保健師が寄り添って支援するところは、これまで力を入れてきており、充実している部分だと思っている。また、妊産婦に対する産前・産後サポート事業というところも、他市に先駆け、デイ型、宿泊型の事業を進めている。さらに、こども家庭センターを立ち上げ、母子保健サイドからの相談と福祉的な相談の両輪で支えていくといった体制をとっている。このあたりが他市に先駆けて充実している部分、強みだと思っている。一方で、弱み

というのは、先ほどの説明の中でも取り上げたが、情報を発信する方法であったり、内容であったり、今後、さらに研究していかなければならない部分であると感じている。

教育委員 成果の部分の書きぶりが、「〇〇を実施した」という結果だけ記載しているが、現状評価や結果を受けての方向性や課題を一定示して成果とした記載をしたほうが良いのでは。

事務局 こども計画には、数値的な目標を設定した方がいい目標と、「実施する」という定性的な目標で評価するものがあると思っている。評価方法が複数あっても良いと思っている。教育の方からは点数がつけられるが、福祉サイドからは点数がつけられないこともあると思うため、いろいろなパターンを踏まえ検討したいと思う。

市長 こどもの医療費が高校生まで拡大したが、高校生は病気にならないと思っていたが、実際は部活のケガで助かったという声もあり、これも成果の一例もある。

教育委員 例えばホームページをクリックしたらこんな声があるとか、教育と福祉が一体化して見えるようなデザインがあれば良いと思う。

市長 今、福祉サイドの話をすると、保健師は職員として私たちの組織で働いている。自治体によって考え方は異なるが、外部の事業者に保健師を委託してサービスを提供してもらうというパターンもある。しかし、やはり直営で行うことによって、現場の感覚を理解できるという点は大きな強みだと思う。保健師だけでなく、介護に関しても同様で、このように現場を持つことができることは、強みになると考えている。

教育長 「やさしい版」をホームページに載せる際は、デジタル立体版となるようにしてもらいたい。

教育委員 今の時代、いろんな方法がある。

教育委員 まずは見ていただくことが始まりである。

市長 制度について知らずに利用できず、教えてほしかったという齟齬を少しでもなくしていきたい。

教育長 教育委員会に対しても周知する方法を具体化するように、様々な場面で言われている。

教育委員 市全体でこども計画と繋がったようなアピールをするネタが散らばっているということを各部局が認識してほしい。

市長 公園整備で市役所向かい側にインクルーシブ遊具を導入することについてお話しすると、これは、障害の有無にかかわらず、すべての人が楽しめる

公園を目指すという意味であり、この考え方は、こども計画の中でも重要な要素となっている。実際には、工事が始まる前からこの取り組みを進めており、その結果としてもこの方向性に繋がることが期待される。この意義を意識できるように、経営会議などで周知を図っていきたいと考える。

市長 まとめると、まず、この計画は特に対象となる皆さんに知っていただき、理解し、使っていただくためのツールである。そのためのさまざまな施策展開や周知活動に努めていき、これからもいろいろな仕掛けをしていく必要がある。

また、全庁的な観点から言うと、子供や若者だけでなく、市民全体をトータルに捉えた取り組みが重要で、教育や福祉、文化など、さまざまな分野がしっかりと関わっていくことが求められる。さらに、全庁的な取り組みとしても、そうした視点を持ちながら調査を進めていきたい。

皆さんからのご意見も賜りながら、教育行政の場面においても、この意図するところを十分に汲み取っていただき、より連携を深めていくことが重要である。私たちの最大の目標は、こどもたちがこの町で幸せに育つことであり、そのために、引き継ぎ力を入れて取り組んでいきたい。

～以上 散会～